

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ぐるーす豊平		
○保護者評価実施期間	令和8年 2 月 1 日		～ 令和8年 3 月 14 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	令和8年 2 月 1 日		～ 令和8年 3 月 1 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3 月 16 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多角的かつ専門的な活動プログラムの展開	学習支援、プログラミング、集団活動、外出など、児童の将来的な自立を見据えた多様なプログラムを提供。担当職員が個々の興味・関心に基づき主導的に立案し、大きな行事ではチーム全体で綿密な事前シミュレーションを行うことで、高い意欲と安全性を両立させています。	プログラムの「実施」に留まらず、その効果をチーム全体で言語化・蓄積し、より根拠に基づいた支援の質の標準化を図ります。
2	個々の特性に寄り添った「きめ細やかな支援計画」と環境設定	児童一人ひとりの特性やアセスメントに基づいた、詳細な個別支援計画を作成。室内においても、視覚的な構造化(ゾーニング)やリラックススペースの確保を行い、定員内でも児童が混乱せず、集中して過ごせる環境を整えています。	子どもが「自分で見て動ける」よう写真やイラストの掲示を増やし、日々の小さな成長や成功体験をこまめに記録して保護者と共有する体制を強化します。
3	透明性の高いPDCAサイクル	役職を問わず全職員が参加する定期会議を実施。現場の気づきを即座に運営改善や支援手順の更新(マニュアル化)に繋げる風通しの良い組織文化が、サービスの質を支える大きな強みとなっています。	会議で成功事例を確認することを習慣化し、決定した改善策を1枚の紙で見える化することで、全員が同じ方向を向いて動ける環境を作ります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	物理的環境(バリアフリー)の制約と安全確保	建物の構造上、玄関に階段があり、肢体不自由や歩行不安定な児童にとって物理的なバリアとなっています。	ハード面の改修が困難な現状を、ソフト面(人的サポート)で完全にカバーします。全スタッフの介助技術の向上と、登降園時の複数名による見守り・介助手順の標準化を徹底。内部研修を定期化し、「人の手」による絶対的な安全管理体制を強化します。
2	専門性の高い人材の確保と定着	福祉業界全体の人材不足に加え、当事業所が求める専門スキルを持つスタッフの採用・育成に時間がかかっています。	外部研修の費用補助や、内部での「エルダー・メンター制度(先輩による相談体制)」を充実させ、未経験者でも安心して専門性を磨ける環境を整えることで、スタッフの定着と支援の質の向上を図ります。